

第2章

「健康・食」をめぐる本市の現状



1 久喜市の概要



利根川をはじめとする豊かな水辺と屋敷林など緑に恵まれた本市は、田園都市として栄えてきましたが、東北縦貫自動車道や首都圏中央連絡自動車道をはじめとする道路網、鉄道等による広域的な交通網の発達により、埼玉県東部の中心都市として発展しています。

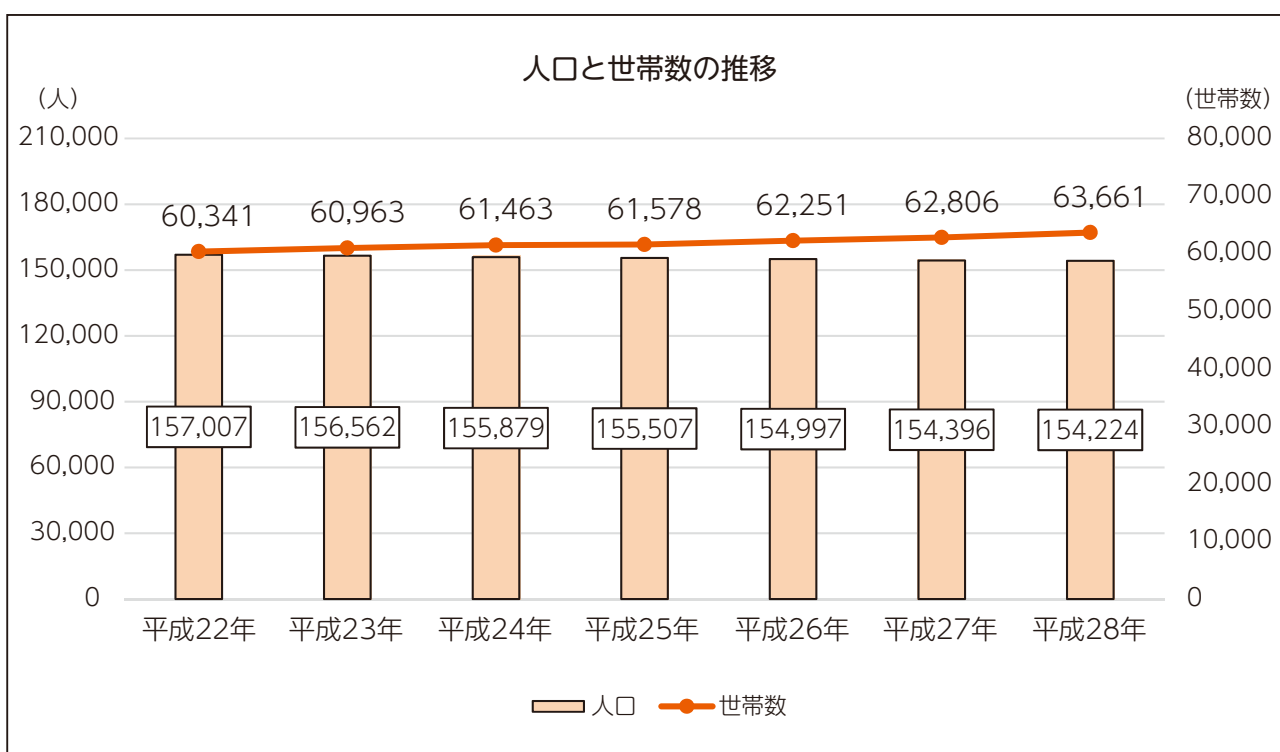
ここでは、本市の健康づくり・食育推進の課題に迫るため、人口動態などの基本的なデータ等から現状を把握しました。

(1) 地域の特徴

① 人口と世帯数の推移

人口は、減少傾向にあります。一方、世帯数は増加しており、核家族化や単身世帯の増加が予想されます。

図1

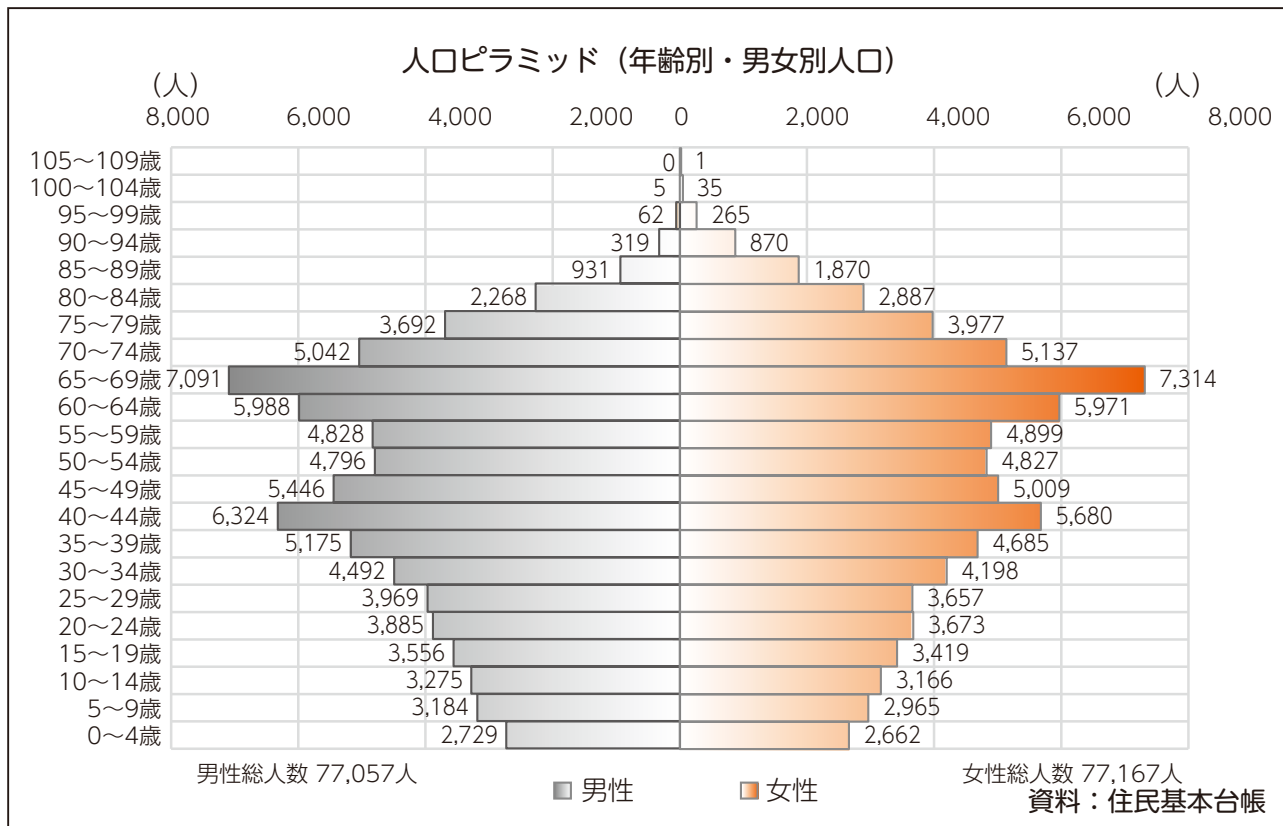


資料：住民基本台帳（外国人を含む）各年4月1日現在

② 人口構造（平成28年4月1日現在）

男女ともに、65歳から69歳の人口が最も多くなっています。

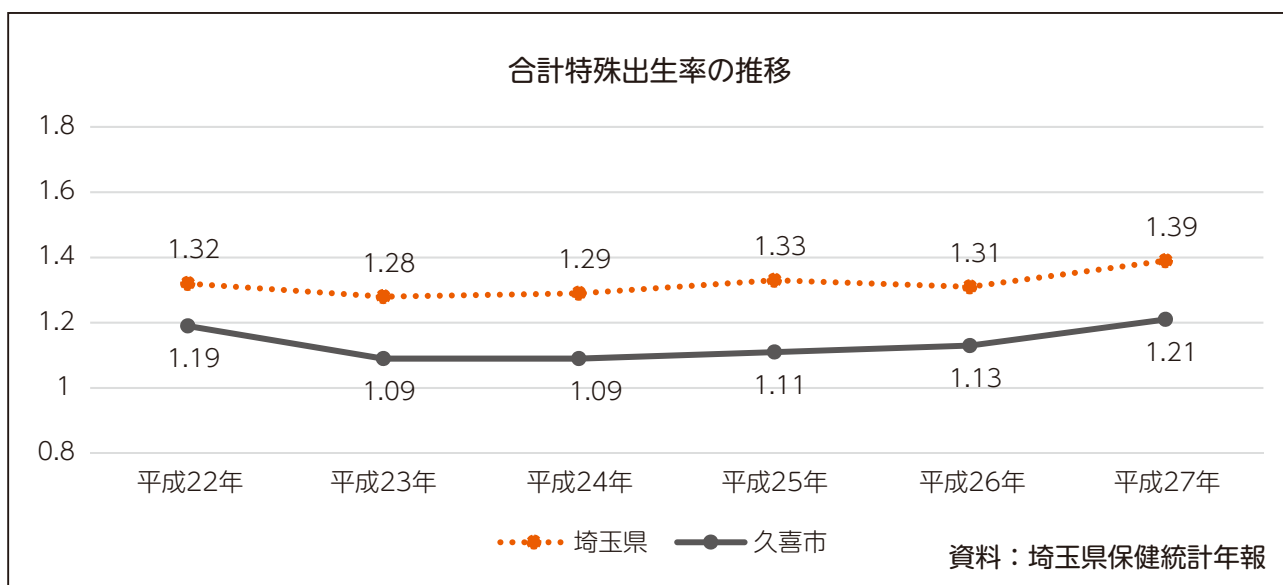
図2



③ 少子化の状況

合計特殊出生率★は、平成24年以降増加傾向にあります。埼玉県より低い値で推移しています。

図3



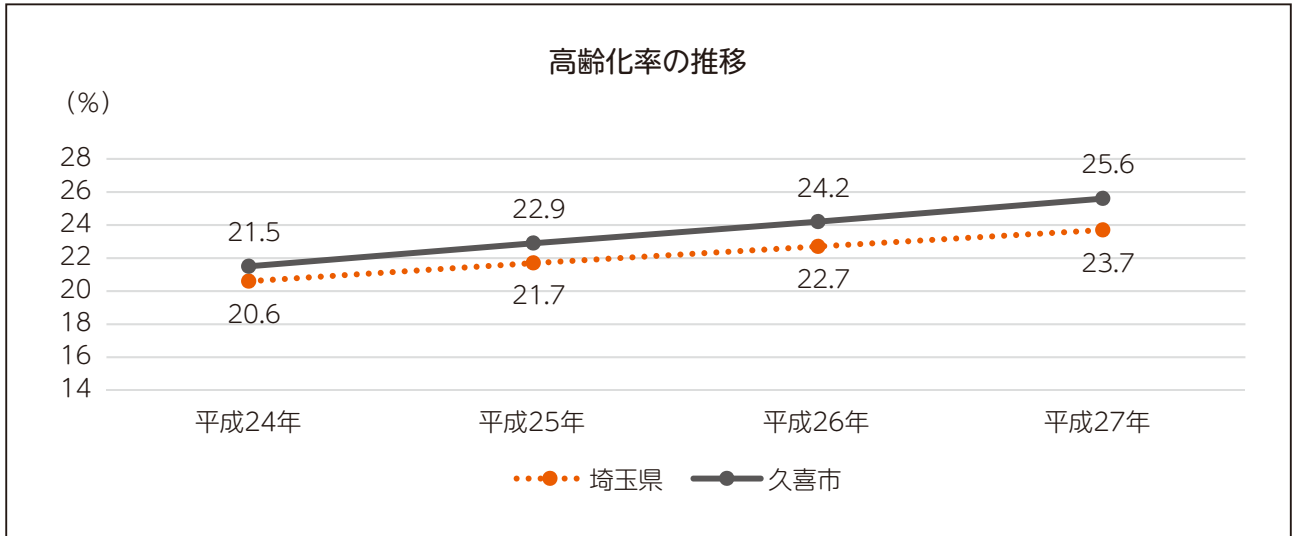
★合計特殊出生率：合計特殊出生率は、出生率計算の際の分母の人口数を、出産可能年齢（15～49歳）の女性に限定し、各年齢ごとの出生率を足し合わせ、一人の女性が生涯、何人の子供を産むのかを推計したものです。

1 久喜市の概要

④ 高齢化の状況

高齢化率は、年々増加しており、埼玉県より高い値で推移しています。

図4

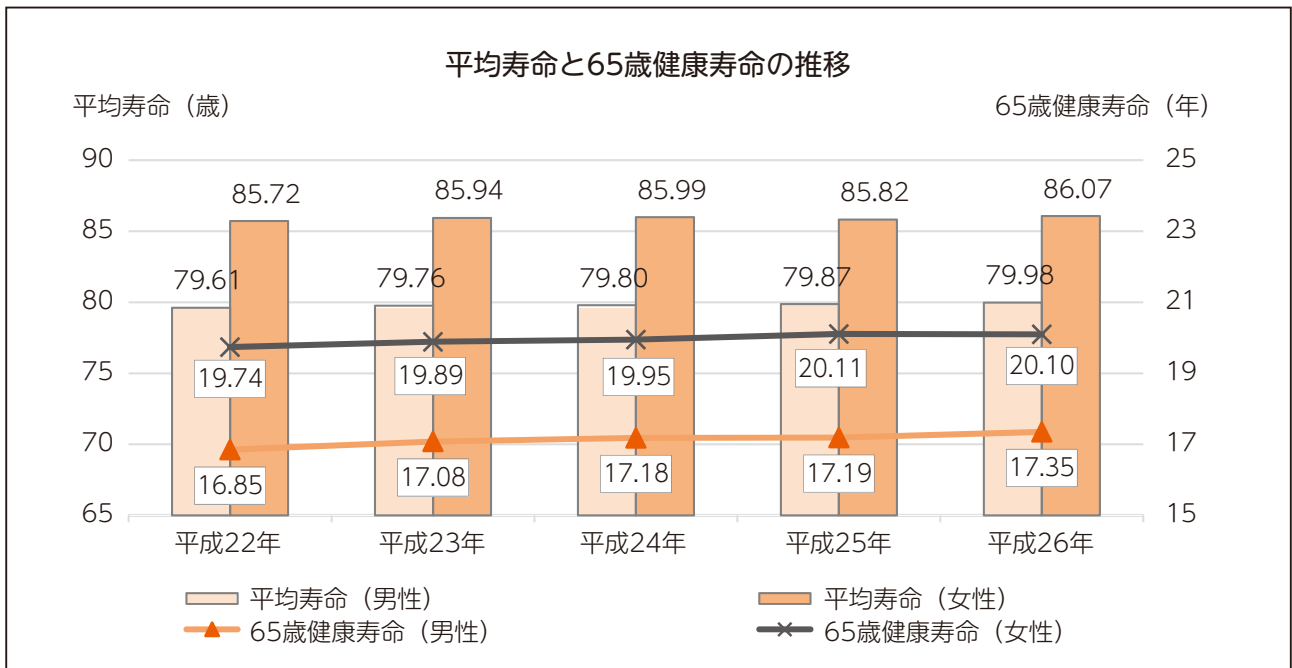


資料：埼玉県町（丁）字別人口調査（各年1月1日現在）

⑤ 平均寿命と65歳健康寿命*

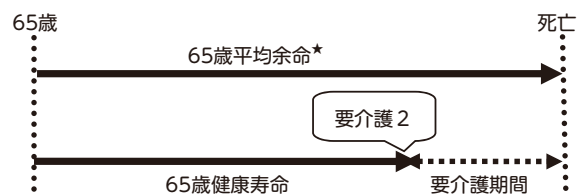
平均寿命、65歳健康寿命は、ともに微増傾向にあります。男性は、女性より平均寿命・65歳健康寿命が短くなっています。

図5



資料：埼玉県の健康指標総合ソフト

*65歳健康寿命：65歳の方が自立した生活を送ることができる期間のことで、具体的には65歳から要介護2以上になるまでの平均的な年数を埼玉県が独自で算出しています。



(2) 「健康と食」に関する状況

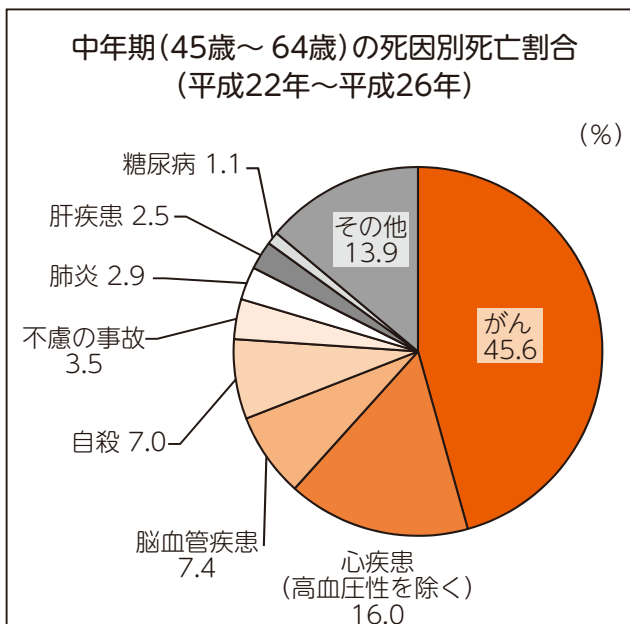
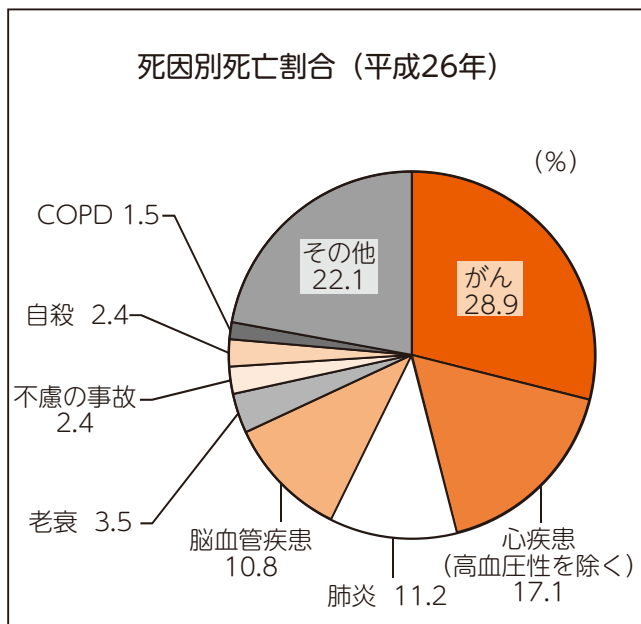
① 死因別死亡割合

平成26年の死因別死亡割合では、死因の第1位はがん28.9%、次いで心疾患17.1%、肺炎11.2%、脳血管疾患10.8%の順であり、COPD（慢性閉塞性肺疾患）★は第8位です。

また、平成22年から平成26年までの中年期（45歳～64歳）の死因別死亡割合では、がんが約半数を占めています。

図6

図7



資料：人口動態統計

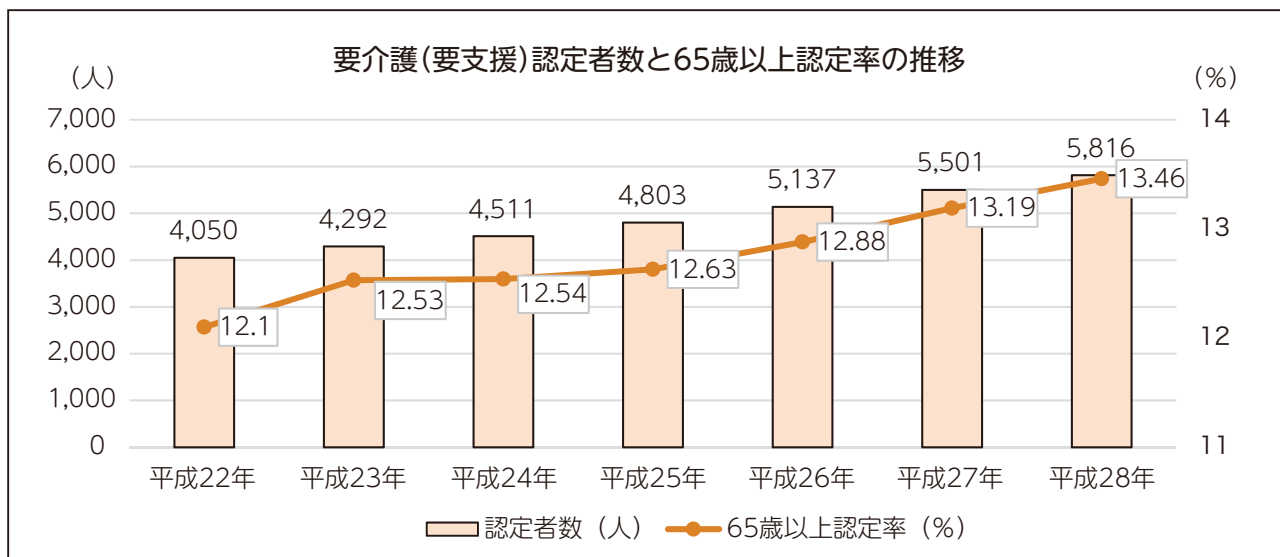
資料：人口動態統計

*小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

② 要介護（要支援）認定者数と65歳以上認定率

要介護★（要支援★）認定者数、65歳以上認定率は、ともに増加しています。

図8

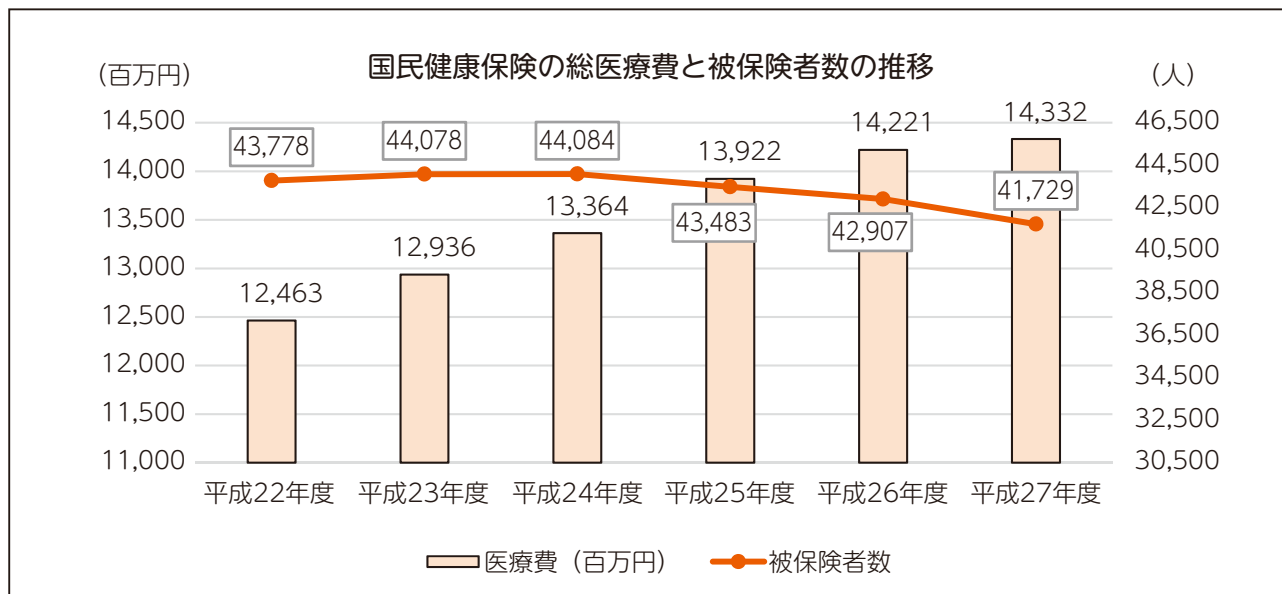


資料：介護福祉課 基準日3月31日

③ 国民健康保険の総医療費等

国民健康保険の被保険者数は減少していますが、総医療費は増加しています。

図9



注：被保険者数は各年度の年間平均

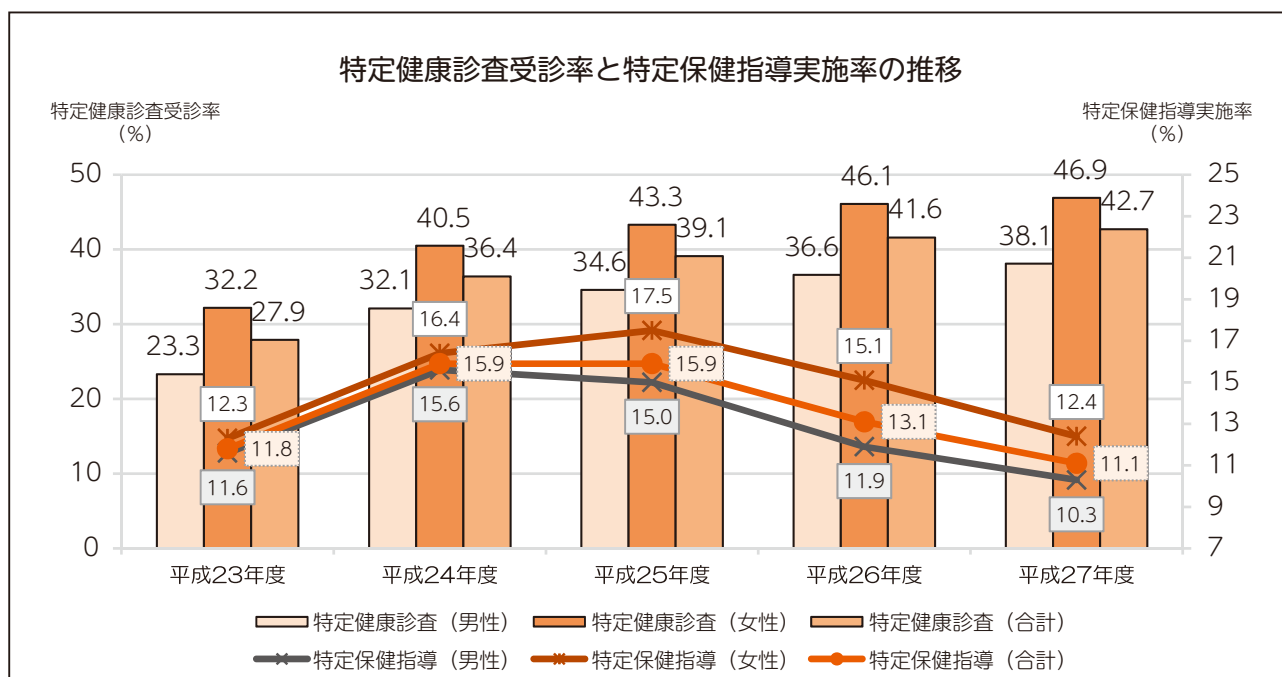
資料：国民健康保険事業状況報告書

④ 国民健康保険被保険者の特定健康診査受診率等

国民健康保険被保険者の特定健康診査受診率は、上昇していますが、平成27年度目標値である50%に届いていません。男女別では、男性より女性のほうが特定健康診査受診率は高くなっています。

特定保健指導実施率は、男女とも下降しています。

図10

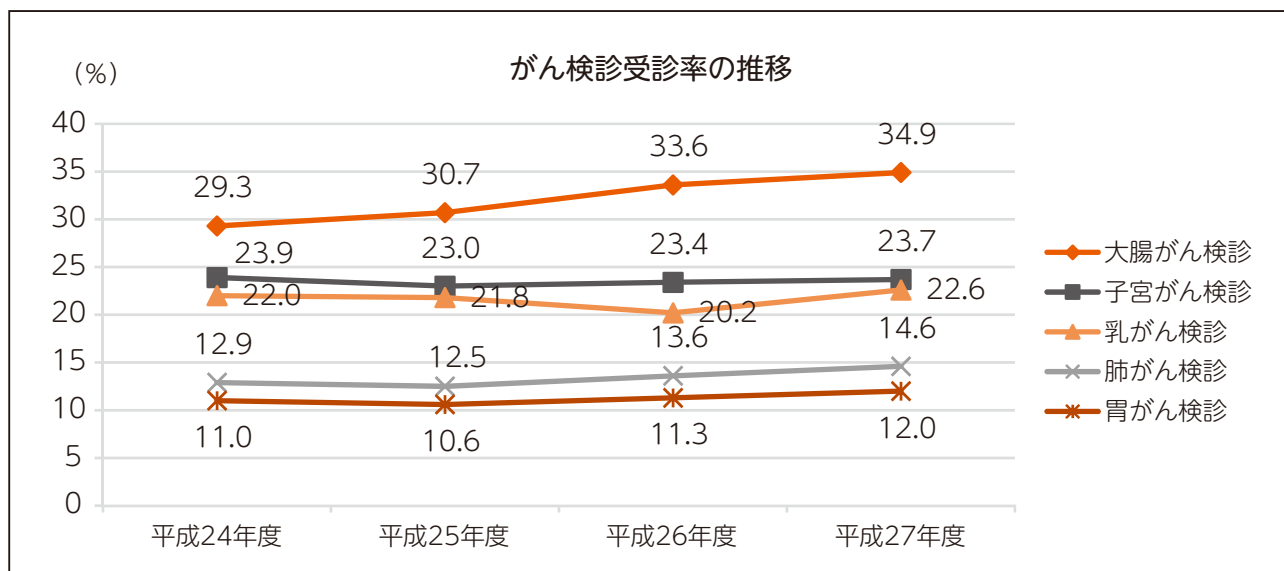


資料：国民健康保険課 法定報告

⑤ がん検診受診率

がん検診のうち、大腸がん検診の受診率は上昇しており、3割を超えています。一方、胃がん検診、肺がん検診、乳がん検診、子宮がん検診の受診率は、ほぼ横ばいで推移しています。

図11

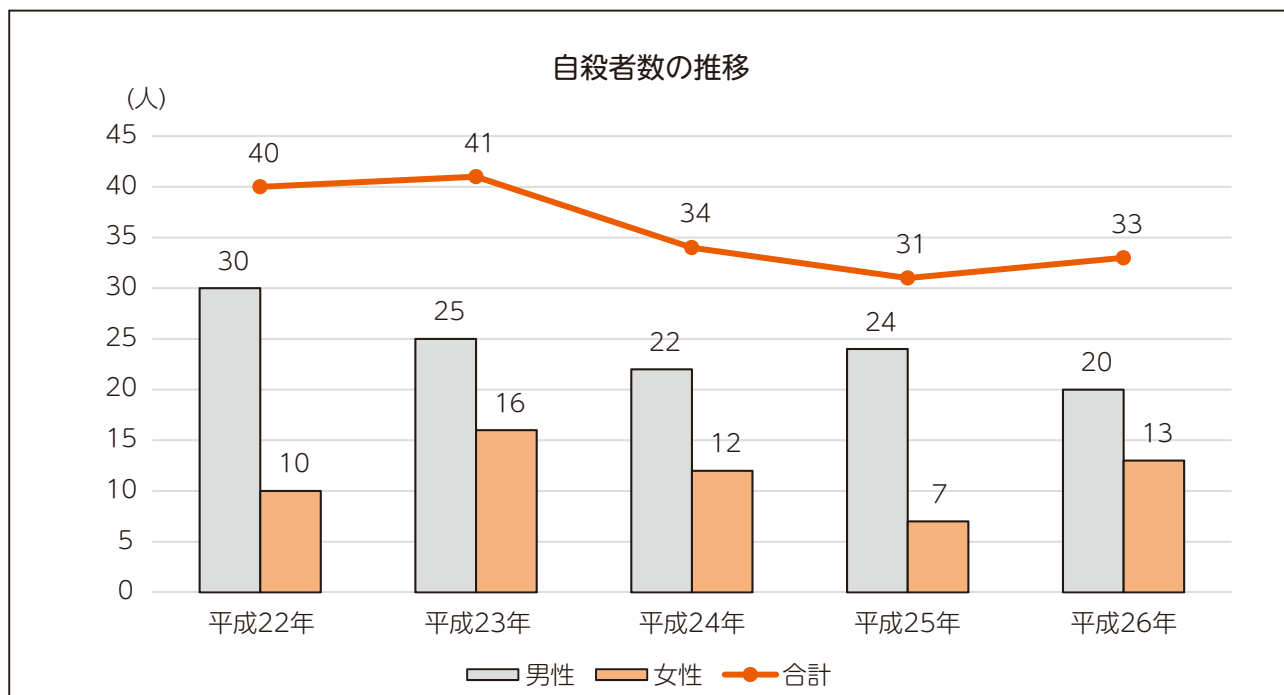


資料：中央保健センター

⑥ 自殺者数

自殺者数は、平成23年をピークに減少傾向でしたが、平成26年は増加に転じています。男女別で見ると、男性の人数が女性を上回っています。

図12



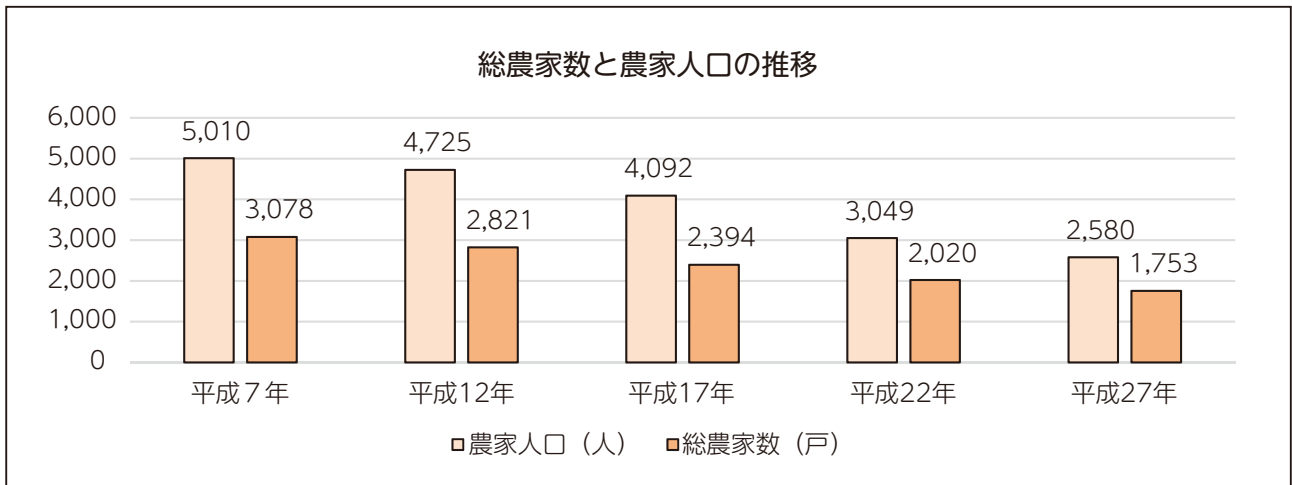
資料：人口動態統計

1 久喜市の概要

⑦ 総農家数と農家人口

総農家数、農家人口ともに減少しています。

図13



注：平成7年、12年、17年は旧1市3町の合計

資料：農林業センサス

⑧ 農産物

市内で生産されている農産物の中で、梨、いちごは埼玉県内でトップクラスの栽培面積となっています。

表1

埼玉県内での、梨の栽培面積(平成18年)

市町村	栽培面積(ha)	順位
久喜市	105.0	1位
白岡市	76.0	2位
蓮田市	63.0	3位
神川町	56.0	4位
加須市	47.0	5位

資料：久喜市農業農村基本計画

表2

埼玉県内での、いちごの栽培面積(平成22年産)

市町村	栽培面積 (ha)	順位
吉見町	17.0	1位
久喜市	11.0	2位
加須市	8.2	3位
本庄市・川島町	7.8	4位

資料：久喜市農業農村基本計画

表3

埼玉県内での、水稻の栽培面積(平成26~27年)

市町村	栽培面積 (ha)	順位
加須市	4,900.0	1位
熊谷市	2,380.0	2位
行田市	2,150.0	3位
久喜市	1,990.0	4位
鴻巣市	1,950.0	5位

資料：久喜市農業農村基本計画

2 第1次計画（平成24～28年度）の評価と考察

第1次の健康増進計画と食育推進計画の策定にあたり、その基礎資料とするため、平成22年度に市民アンケート調査を実施しました。両計画の取り組みの成果を評価するため、その調査項目の一部を目標値として設定しています。

計画の推進状況を把握し、評価を行うため、平成27年9月から10月にかけて、次のとおり市民アンケート調査を実施しました。

(1) 市民アンケート調査の実施（結果については市ホームページに掲載しています。）

	市民調査	中学生調査	小学生調査
目的	平成22年12月調査の結果と比較することで、市民の健康づくりや食育に対する意識や行動の変化を把握します。また、調査結果から見えてくる現状や課題を整理し、第2次計画の基礎資料とします。	生涯を健康に過ごすためには、子どもの頃からの健康づくりや食育が大切です。小中学生の生活習慣などの現状を調査することで、調査結果から見えてくる現状や課題を整理し、第2次計画の基礎資料とします。	
調査対象者	16歳以上の市民	中学2年生	小学5年生
抽出方法	無作為抽出	市内公立中学校11校 2学年1クラス	市内公立小学校23校 5学年1クラス
調査方法	郵送配布・回収	学校配布・回収	学校配布・回収
対象者数	2,000人	358人	668人
回収率	44.9%	95.0%	97.9%
調査時期	平成27年9月15日から10月30日まで		
<p>*P39以降のグラフの（n=〇〇）は回答数です。 16歳以上は16歳以上の市民、中学生は市内公立中学校2年生、小学生は市内公立小学校5年生です。 *調査結果の比率は、小数点以下第2位を四捨五入。このため、合計が100%にならないこともあります。 また、複数回答の質問は、回答数を100%としているため、合計が100%を超えます。</p>			

回答数 *性別及び年代について無回答があるため、合計が合わない場合があります。

表4

年代									再掲	
	16歳～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	16歳以上	20歳以上
男性	10	25	41	50	60	106	94	32	419	408
女性	10	28	47	65	81	118	91	33	473	463
合計	20	53	88	115	141	224	187	65	898	873

(2) 健康増進計画の各分野における評価と考察

市民アンケート調査の結果や所管課が行う事業の結果などから、計画の指標の進捗状況を把握し、評価及び考察を行いました。

栄養・食生活

- 「朝食を食べない市民の割合」のうち、中学生は減少し、改善していますが、20歳代男女、30歳代男性は逆に増加しており、目標値を下回っています。今後も引き続き、若い世代、特に男性に対する朝食の重要性を啓発する取り組みが必要です。
- 「自分の適正体重を維持することのできる食事量を理解している市民の割合」は、20歳以上の男女ともに減少し、目標値を下回っています。一方、「肥満者等の市民の割合」、BMI[※]が「18.5未満の者」と「25.0以上の者」も、ともに減少し、改善されています。今後も、個に応じた適正な食事量の周知や啓発を強化していく必要があります。

表5

◎目標値達成 ○目標値に向かって改善している ×改善なし

指 標		対象者	平成22年度 (調査結果)	平成27年度 (調査結果)	平成27年度 目標値	評価	
1	朝食を食べない市民の割合の減少	中学生	4.0%	2.6%	0%	○	
		20歳代男性	11.8%	24.0%	10%以下	×	
		20歳代女性	13.5%	14.3%	10%以下	×	
		30歳代男性	16.2%	24.4%	15%以下	×	
2	自分の適正体重を維持することのできる食事量を理解している市民の割合の増加	20歳以上男性	59.5%	44.1%	80%以上	×	
		20歳以上女性	68.5%	55.9%	80%以上	×	
3	肥満者等の市民の割合の減少	BMI：18.5未満の者	20歳代女性	26.9%	25.0%	15%以下	○
		BMI：25.0以上の者	20～60歳代男性	28.6%	23.4%	15%以下	○
			40～60歳代女性	16.2%	11.4%	15%以下	◎

身体活動・運動

- 「意識的に運動を心がけている市民の割合」は、男女ともに増加し、目標値を上回っています。また、「何らかの地域活動に参加している市民の割合」も増加し、改善しています。身体活動★・運動についての市民の意識が高まっていると考えられます。
- 「日常生活における歩数」については、20歳以上の男女は、ともに減少し、平成22年度より下回り、改善が見られませんでした。一方、70歳以上の男女については、ともに増加し、改善しています。今後は、特に若い世代に対し、身体活動の増加や運動の習慣化を働きかける取り組みが必要です。

表6

◎目標値達成 ○目標値に向かって改善している ×改善なし

指 標		対象者	平成22年度 (調査結果)	平成27年度 (調査結果)	平成27年度 目標値	評価
4	意識的に運動を心がけている市民の割合の増加	20歳以上 男性	65.3%	72.3%	70%以上	◎
		20歳以上 女性	60.8%	70.6%	65%以上	◎
5	日常生活における歩数の増加	20歳以上 男性	5,467歩	4,851歩	6,500歩以上	×
		20歳以上 女性	4,596歩	4,069歩	5,500歩以上	×
		再掲 70歳以上男性	4,831歩	4,948歩	5,800歩以上	○
		再掲 70歳以上女性	3,346歩	3,412歩	4,300歩以上	○
6	何らかの地域活動に参加している市民の割合の増加	60歳以上 男性	31.5%	36.2%	40%以上	○
		60歳以上 女性	31.1%	31.4%	40%以上	○

★BMI：「ボディ・マス・インデックス」の略で、体重と身長から肥満度を求める計算式です。
BMI = 体重 (kg) ÷ 身長 (m) ÷ 身長 (m)

肥満度の判定

BMI	判定基準
18.5未満	やせ
18.5以上25.0未満	適正体重
25.0以上	肥満

休養・こころの健康

- 「ストレスを感じた市民の割合」は、平成22年度より減少し、改善しています。
また、「睡眠による休養を十分にとれていない市民の割合」も、平成22年度より減少し、目標値を上回っています。
- 自殺者数は、平成22年度より減少し、改善しましたが、更なる改善をめざす必要があります。
今後も、相談しやすい環境づくりや相談先の周知を図る必要があります。

表7

◎目標値達成 ○目標値に向かって改善している ×改善なし

指 標		対象者	平成22年度 (調査結果)	平成27年度 (調査結果)	平成27年度 目標値	評価
7	ストレスを感じた市民の割合の減少	16歳以上	69.9%	68.6%	60%以下	○
8	睡眠による休養を十分にとれていない市民の割合の減少	16歳以上	18.2%	17.5%	18%以下	◎
9	自殺する市民の減少 (自殺者の減少)	全世代	40人	33人 (平成26年)	30人以下	○

たばこ・アルコール

- 「喫煙が及ぼす健康影響についての知識の定着」については、多くの疾病については改善されましたが、「妊娠に関連した異常」は改善が見られませんでした。また、「効果の高い分煙に関する知識」については、16歳以上の女性は改善が見られましたが、男性は改善が見られませんでした。今後も、喫煙が健康に及ぼす影響についての啓発を行う必要があります。
- 「多量に飲酒する市民の割合」は、男性は改善しましたが、女性はわずかに増加し、改善が見られませんでした。引き続き、適切な飲酒量やアルコールが健康に及ぼす影響について啓発する必要があります。

表8

◎目標値達成 ○目標値に向かって改善している ×改善なし

指 標		対象者	平成22年度 (調査結果)	平成27年度 (調査結果)	平成27年度 目標値	評価	
10	喫煙が及ぼす健康影響についての十分な知識を知っている市民の割合の増加	肺がん	16歳以上	86.8%	90.9%	すべて100%	○
		気管支炎	16歳以上	62.2%	65.0%		○
		喘息	16歳以上	52.2%	54.9%		○
		妊娠に関連した異常	16歳以上	50.0%	49.1%		×
		脳卒中	16歳以上	40.2%	45.4%		○
		心臓病	16歳以上	38.6%	46.4%		○
		歯周病	16歳以上	22.8%	30.3%		○
		胃潰瘍	16歳以上	16.5%	21.2%		○
11	効果の高い分煙に関する知識を知っている市民の割合の増加	16歳以上男性		70.3%	65.6%	すべて100%	×
		16歳以上女性		64.2%	68.3%		○
12	多量に飲酒する市民の割合の減少 ※3合を超える飲酒	20歳以上男性		6.3%	4.9%	3.2%以下	○
		20歳以上女性		0.9%	1.1%	0.2%以下	×

生活習慣病・歯の健康

- 「糖尿病合併症」「むし歯のない幼児の割合」「80歳で20歯以上の自分の歯を有する市民の割合」のすべての指標において、目標値を上回りました。
- 生活習慣病については、今後も継続的に、発症予防や重症化予防の取り組みを推進する必要があります。また、がんに対する指標を新たに加え、取り組みを強化する必要があります。
- 歯の健康については、生涯を通じた歯科口腔^{*}保健の取り組みを、今後もさらに推進する必要があります。

表9

◎目標値達成 ○目標値に向かって改善している ×改善なし

指標	対象者	平成22年度 (調査結果)	平成27年度 (調査結果)	平成27年度 目標値	評価
13 糖尿病合併症の減少 (糖尿病性腎症による 身体障害者手帳1級新 規発行者の減少)	18歳以上	23人	19人	20人以下	◎
14 むし歯のない幼児の割 合の増加	3歳児健診 受診児	78.3%	85.1%	80%以上	◎
15 80歳で20歯以上の自 分の歯を有する市民の 割合の増加	80歳以上	6.5%	23.1%	10%以上	◎

^{*}口腔：歯茎、顎、口蓋、頬、口腔粘膜、唾液腺などを含めた口の中のこと。摂取した食物を細分化し、飲み込む働きも含まれます。

(3) 食育推進計画の各基本目標の評価と考察

健康なからだをつくる食育

- 「朝食を食べない市民の割合」のうち、小学生と中学生の割合は、ともに減少し、改善しています。一方、20歳代男女と30歳代男性については、増加しており、目標値を下回っています。
- 「自分にとっての適切な食事の量や内容を知っている市民の割合」は、減少しており、目標値を下回っています。
- 「食事を良く噛み、ゆっくり食べる市民の割合」は、改善しています。
- 健康増進計画の栄養・食生活と同様、今後も引き続き、若い世代、特に男性に対して朝食の重要性を啓発するとともに、個に応じた適正な食事量の周知を強化していく必要があります。

表10

◎目標値達成 ○目標値に向かって改善している ×改善なし

指 標		対象者	平成22年度 (調査結果)	平成27年度 (調査結果)	平成27年度 目標値	評価
1	朝食を食べない市民の割合	小学生	1.7%	1.5%	0%	○
		中学生	4.0%	2.6%	0%	○
		20歳代男性	11.8%	24.0%	10%以下	×
		20歳代女性	13.5%	14.3%	10%以下	×
		30歳代男性	16.2%	24.4%	15%以下	×
2	自分にとっての適切な食事の量や内容を知っている市民の割合	16歳以上	63.8%	49.9%	70.0%	×
3	食事をよく噛みゆっくり食べる市民の割合	16歳以上	28.7%	30.1%	35.0%	○

**くき
地域^{*}を知る食育**

- 「地元産食材を優先的に購入する市民の割合」は、改善していますが、目標値を下回っています。今後は、さらに地元産食材の鮮度や味の良さを周知する必要があります。
- 「学校給食における地元産農産物を使用する割合」は、目標値を上回っています。引き続き、生産者との連携を図り、計画的な使用を進めていく必要があります。

表11

◎目標値達成 ○目標値に向かって改善している ×改善なし

指 標		対象者	平成22年度 (調査結果)	平成27年度 (調査結果)	平成27年度 目標値	評価
4	地元産食材を優先的に購入する市民の割合	16歳以上	9.1%	10.1%	15.0%	○
5	学校給食における地元産農産物を使用する割合 (米を含む)	小・中学生	33.2%	41.1%	35.0%	◎

^{*}地域：第1次の久喜市食育推進計画では、久喜市に限らず様々な地域の食を知ることで、久喜市の良さを再認識するという思いを込めて「^{くき}地域」と表現しました。

豊かな心を育む食育

- 「食育の言葉や意味を知っている市民の割合」は、中学生は目標値を上回り、小学生と16歳以上の市民は、いずれも改善しています。今後も引き続き、食育についての啓発を行う必要があります。
- 「毎日きちんとした食事を楽しくゆっくり食べる市民の割合」のうち、小学生については改善が見られませんでした。また、「食文化を伝える市民の割合」も、改善がみられませんでした。引き続き、啓発を行うとともに、伝統料理などの料理体験の推進や食を通じた交流の機会を増やす必要があります。

表12

◎目標値達成 ○目標値に向かって改善している ×改善なし

指 標		対象者	平成22年度 (調査結果)	平成27年度 (調査結果)	平成27年度 目標値	評価
6	食育の言葉や意味を知っている市民の割合	小学生	82.6%	89.8%	90.0%	○
		中学生	75.6%	90.9%		◎
		16歳以上	82.8%	86.7%		○
7	毎日きちんとした食事を楽しくゆっくり食べる市民の割合	小学生	72.9%	70.3%	85.0%	×
		中学生	49.9%	52.4%	65.0%	○
		16歳以上	57.6%	59.0%	70.0%	○
8	食文化を伝える市民の割合(伝えたい料理があり、伝えている、今後伝えたい)	16歳以上	59.1%	57.2%	70.0%	×

(4) 健康増進計画と食育推進計画の推進に関する結果と考察

健康増進計画と食育推進計画の一体的な推進

本市では、両計画の周知を目的とした出前講座等を行うほか、計画策定後の平成24年度からの5年間、両計画の周知及び両事業の啓発を目的とする「久喜市健康・食育まつり」を、11月～12月の時期に、久喜総合文化会館を会場に継続して実施しました。

○結果と考察

「健康・食育まつり」の新たな実施により、市民を中心とした事業が展開されたことが、大きな成果となりました。成果については、次のとおりです。

実施内容	成果（ ）の実績は平成28年度
<ul style="list-style-type: none"> ◆実行委員会と市の共催（講演会等の開催） ◆教育委員会の後援（活動発表、啓発ポスター、パネル展示） ◆楽しい「まつり」の要素を盛り込みながら、テーマを絞らずに「健康づくり」と「食育」に関する内容について様々な地域団体の参加協力による催し 	<ul style="list-style-type: none"> ◆実行委員を中心に、地域の団体や多くの市民との協力体制が構築できた。（実行委員52人：うち参加団体数24団体） ◆イベントの開催に関し、多くの市民の協力者を得ることができた。特に、中学生や高校生ボランティアにより、若い世代の参加も得られた。（実行委員を含む運営協力者635人：うち中高生76人） ◆教育課程の中における子どもたちの健康づくりや食育の大切さについて、教職員の理解を得ることができ、多くの参加を得ることができた。また、学校等の発表により、児童生徒保護者等が学び合い、学校、家庭、地域との共通理解や連携強化の一助となった。（ポスター製作：34校。うち、全学年、全学級がポスター製作を行った学校もあり。）（パネル展示発表校：18校）（実践発表校：1園5校）

一方、市民アンケート調査によると（図14）、「『久喜市健康・食育まつり』を知っていて参加したことがある市民」の割合は、男性3.1%、女性5.3%、全体では4.3%であり、「知っているが参加したことはない」と回答した割合まで含むと、全体の約3割の周知にとどまり、約7割は「知らない」と回答しています。

今後は、第1次計画の評価及び課題等を踏まえ、推進方法についても見直しを図る必要があります。

図14

